あしぎんマーケットニュース

2026年11月9日

2026年10月米雇用統計

＜米10月雇用統計概要＞

・米10月雇用統計における非農業部門雇用者数は、前月比+165千人と市場予想の+70千人を大きく上回った。また、過去2ヵ月分についても、8月分は+133千人から+186千人、9月分は+29千人から+60千人と合計+84千人上方修正された。
・業種別では、専門・事業サービスはコンサル関連業務や人材派遣業の雇用増加を背景に+70千人、教育・ヘルスケアは病院や在宅医療などでの雇用増加から+53千人とサービス業を中心に雇用の増加がみられた。一方、その他の主要業種については総じて小幅な推移となった。
・失業率については、4.1%と前月から低下し、労働参加率も61.9%へ上昇するなど、労働市場への参加拡大が確認された。一方、フルタイムで働きたくても、十分な勤務時間を確保できないパートタイム就業者は前月比+339千人と増加しており雇用環境には一部弱さもみられている。
・平均時給については、前月比+0.4%、前年比+3.1%と共に市場予想を上回ったものの、前年比については前月から伸びが鈍化しており、低水準での推移が継続している。

＜米10月雇用統計結果＞

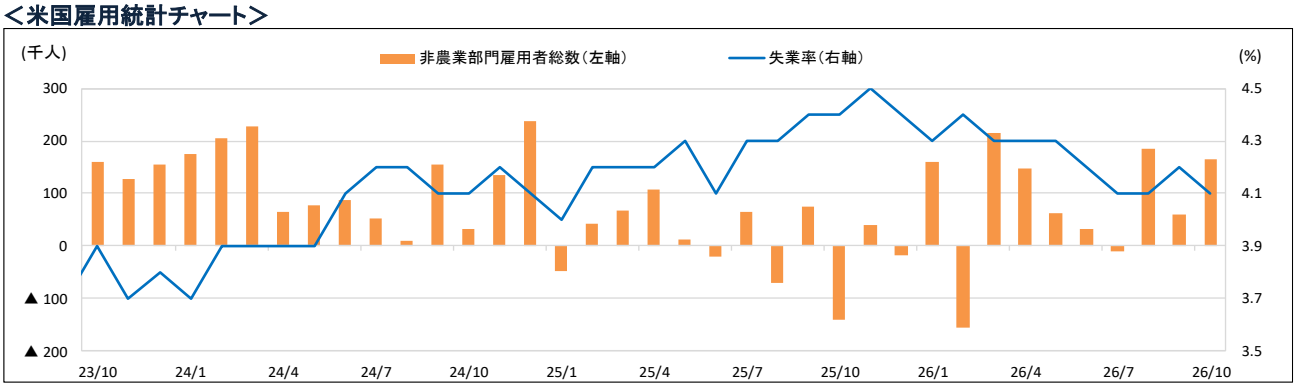
主要項目	10月分	市場予想（10月分）	9月分
非農業部門雇用者数（千人）	165	70	60(修正前：29)
失業率（%）	4.1	4.2	4.2
労働参加率（%）	61.9	61.8	61.8
平均時給（前月比）（%）	0.4	0.3	0.3（修正前：0.1）
平均時給（前年比）（%）	3.1	2.9	3.2（修正前：3.0）

【米国雇用統計について】
●米国雇用統計とは、米国雇用の情勢（失業者数や就業者数など）を調査した統計で、最も重要な経済指標の一つ。原則として調査翌月の第1金曜日に発表される。指標は十数項目あるが、特に「失業率」と「非農業部門雇用者数」が注目されている。
●FRBは、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標として掲げており、金融政策の動向を見極めるうえで「米雇用統計」は重要視される。

＜項目別の雇用者数増加幅（単位：千人）＞

項目	今回結果	前回結果	項目	今回結果	前回結果
鉱業・木材伐採	▲ 1	▲ 2	専門・事業サービス	70	8
建設	▲ 3	16	教育・ヘルスケア	53	21
製造	19	13	レジャー・宿泊	▲ 13	13
貿易・運輸・公益事業	22	29	政府	6	▲18
情報	▲ 1	▲11	その他サービス	6	5
金融	7	▲14			

＜米国雇用統計チャート＞

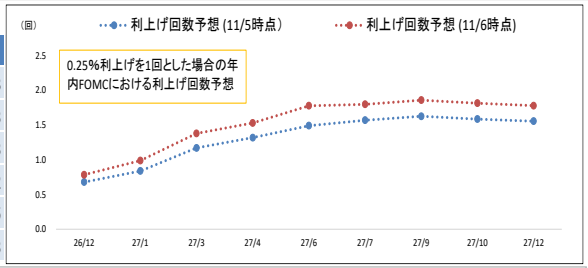


＜今回のポイント＞

・今回の雇用統計の結果は、ウォーシュFRB議長の米国の労働市場は比較的堅調との認識を裏付ける内容となった。雇用の底堅さを受けて、FRBがインフレ抑制を重視した金融政策を継続できるとの見方が広がり、FF金利先物市場では12月利上げ回数予想は0.78回（1回当たり0.25%換算）と公表前から上昇した。
・もっとも、長期間にわたり仕事が見つからない失業者は増加基調にあるほか、フルタイムで働くことを希望しながら、十分な勤務時間が確保できないパートタイム就業者も増加するなど、一部には弱さもみられるため、こうした弱さが雇用環境全体の悪化に繋がらないかについては引き続き注意を要する。

＜市場動向＞

	11月6日	11月5日	前日比
ドル／円相場（円）	158.48	157.70	+0.78
ダウ平均株価（ドル）	51,285.73	51,523.06	▲ 237.33
S&P500指数（ポイント）	7,376.86	7,353.73	+23.13
NASDAQ総合指数（ポイント）	24,579.42	24,315.00	+264.42
米2年国債利回り（%）	4.51	4.46	+0.05
米10年国債利回り（%）	4.86	4.83	+0.03



※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。

足利銀行